

平成 26 年度学校評価 後期アンケート結果のご報告

平成 26 年度後期学校評価に関わる教育アンケートにご協力いただきありがとうございました。

児童生徒や保護者の皆様、学校関係者の皆様から頂きましたアンケートの結果から、桃陽総合支援学校の教育活動について分析・考察を行い、第 3 回学校運営協議会事会で報告いたしました。委員の皆様からいただきました貴重なご意見を参考に、取り組んでいきたいと思ひます。

アンケート結果と評価結果は、本校ホームページに掲載しています。本誌面では、アンケート結果からいくつかの項目を取り上げてご報告いたします。

学習について

アンケートでは、小学部児童の 86.9%、中学部生徒の 50.0%が「勉強はよくわかる」と回答し、保護者の 73.4%が「基礎的な学力をつけている」と回答しています。小学部に比べ、中学部では学習内容がより難しくなることも、要因と考えられます。また、保護者の 78.3%が「ICT機器を有効に活用し、授業が工夫されている」と回答しています。「書くこと」に苦手意識を持つ児童生徒も複数いるため、今後も ICTを有効に活用し、授業理解をはかりたいと思ひます。

「話すこと」の実現度は、小学部 60.9%、中学部 54.2%と前回よりも低い結果でした。一方で、「自分から進んであいさつをする」と回答した児童生徒の割合、保護者から見た実現度、学校関係者の「あてはまる」と回答した割合は、いずれも 70%台であり、昨年度や今年度前期よりも少しずつ高くなってきています。表現することにもつながる挨拶の指導を今後も重ねていきたいと思ひます。

規範意識について

「場に応じた言葉づかいをする」と回答した児童は 69.6%、生徒 70.8%で、前期に比べて大きく伸びています。教職員が指導を重ねてきた結果、少しずつ成果が表れていると言えます。一方で、「学校のきまりや学級のルールを守る」意識は前回より低くなっています。ルールを守ろうとする意識は、生涯必要なことであり、学齢期から段階を踏んで指導していくこと、定期に自己を振り返る機会を持つことが大切です。子どもたちの思いを受けとめながら、学校生活においてもいねいに指導を続けていきたいと思ひます。

自己効力感について

アンケートでは、「自分にはよいところがある」と回答したのは、小学部児童が 65.2%、中学部生徒が 41.6%で、前回のアンケートに比べ、小学部児童は約 5%高くなり、中学部生徒は約 20%低くなっていました。思春期の生徒は、友だちとの関係に悩んだり、課題の困難さに直面して自信を失くしたり、自己を否定的に捉える場面も増えてくると考えられます。率直な思いを受けとめながら、互いに認め合える関係づくりや、努力してやり遂げる経験を積んでいけるよう取り組んでいきたいと思ひます。

コミュニケーション・あいさつについて

自分の思いや考えを表現することに苦手意識を持つ児童生徒も多く、「聞くこと」に比べて、

一年を終える節目に、委員の方々からご意見を頂く中で、改めて児童生徒の成長を感じています。

今後も地域・学校・病院・家庭との連携を大切に取り組んでいきたいと思ひます。

